

世田谷介護ネットニュース

第20号

発行日：平成 22 年 10 月 16 日
発行：世田谷区介護サービスネットワーク
事務局：世田谷区社会福祉事業団
世田谷区福祉人材育成・研修センター
連絡先：東京都世田谷区成城 6-3-10
電話：(03)5429-3100

平成 22 年度 研修グループ企画研修報告

1 感染症研修

研修グループでは9月24日 金 三茶しゃれなあどにて、世田谷区社会福祉事業団訪問サービス課の佐々木静枝課長を講師に「感染症」の研修を行いました。

今回の研修を行うに当たり、研修グループでは感染症についてのアンケート行いました。

回答者はヘルパーさんケアマネジャーさんが半数でしたが、「感染主に関して不安に感じている」という回答が81%を占めました。「何についての不安が大きいか?」という質問には知識がないから59%、対象者が感染しているか分からないから心配という回答が29%ありました。

感染症の研修に対して希望するが88%あり、内容に関してはさまざまでした。

今回、アンケートを踏まえ、一般的なものから、最近流行っ

ているアシネトバクターバウマニも取り入れた研修を行いました。参加者は53名でした。

2 明日から役立つヘルパー研修

10月15日(金)は「明日から役立つヘルパー研修」として、「コミュニケーション」をテーマに中井喜美子氏(教師学・看護ふれあい学上級インストラクター・親業訓練・自己実現のための人間学講座)にお願いし、三茶しゃれなあどにて開催しました。

参加者35名でしたが、入浴拒否の事例、物取られ妄想、認知症の方で、サービス提供が難しいかたなどの事例を元に、自分の気持ちをどう伝えるか!ということ研修しました。

そして、話の繰り返しも耐えられるのは30分、5回だけということでした。コミュニケーションは言葉が7%、顔、オーラ、表情が93%というお話でした。

研修グループ代表 宮川 英子



平成 22 年度第 2 回 せたがや訪問介護連絡会定例会報告

平成 22 年 10 月 19 日に成城ホール集会室 C、D にて第 2 回定例会が開かれました。今回は世田谷区のスタンダードモデルを作ろうという趣旨で5つのグループに分かれて訪問介護に必要な書式を検討しました。出席された方は管理者やサービス提供責任者の方がほとんどで20社31名のご参加をいただきました。

検討した書式は 訪問介護新規依頼書 アセスメントシート 訪問介護計画書 訪問介護報告書(ケアマネジャーへの報告書式) モニタリングシート の5種類です。 の書式は内容的に共通する事が多いのですが今回はグループワークで別々に検討いたしました。各グループで前提条件を予め確認し、現在使用している各社の様式などを元に活発に討議が行われました。同じ目的でも各社独自のいろいろな様式があることがよく判りました。その上で最低限必要となる項目、必要最

小限で短時間で聞き取り出来る内容などを一つフォームとして(グループのみは項目まで)発表することができ大変有意義でした。ご参加いただきました皆様大変ありがとうございました。次回の幹事会で更に検討し世田谷区にも内容を確認したものを11月中に介護ネットワークのホームページで公開できるように進める予定です。

次回は1月に研修会を開く予定です。追って詳細をお知らせしますので是非ご参加ください。訪問介護連絡会では内容の充実に伴い新たな幹事を募集しております。ご興味ある方は幹事までご一報下さい。幹事会にお気軽にお越し下さるようお待ちしております。

訪問介護連絡会 幹事 鳥居 佐智子

連載 薬局からこんにちは(4)

～薬局成城ファーマシー祖師谷店 橋本孝子～

今回はとある患者さんのお話です。糖尿病の治療のため血糖値をコントロールする内科的な薬のほか、精神科の薬などを服用中の独居の方でした。この患者さんの課題は睡眠剤を正しく服用することと、内服とインスリンにより血糖値をコントロールすることでした。特に睡眠剤については、以前引き出しの中や洋服の間などに睡眠剤をためておき、まとめて服用してしまった事があるとのことでした。

ご本人の情報をケアマネさんより提供していただいた後、これからどのように薬を管理していくか、ケアマネさん、訪看さん、ヘルパーさんや親しいご友人などと相談をして、1週間分ずつ薬をセットすることになりました。ところが、ご本人より眠前の薬が足りなくなるとのお話。どうやら服用する日付をいれてカレンダーに薬をセットしておいても、眠れない時は最後の日付の薬をカレンダーからはがして自己調節して服用してしまうようです。

余分に薬を渡すとある分だけ薬を飲んでしまうし、薬の



残りが全く無くなると不安になってしまう。薬が足りないと思い、受診予定日以外に自己判断で病院に行き、ほかの薬局で薬をこっそりともらってきてしまったこともありました。その度にケアマネさんや患者さんを取りまく方々と相談し、正しく薬を服用できるよう検討していきましました。

きちんと治療を続けていくためには、飲み忘れが問題になるケースはもちろん、このように薬を飲みすぎてしまうというケースもあります。それぞれの患者さんにあったサポートの仕方があると感じた一例でした。

私たち薬剤師は患者さんを訪問する頻度が限られるため、その方の生活状況や問題点等の情報を収集しその方にあった服用法を検討するには、この患者さんのようにケアマネさん、ヘルパーさんなどの普段からその方と接する機会の多い方からの情報がとても役立ちます。

より良いサポートのために多職種での連携にもこれから進めていければと思います。

24時間巡回・随時訪問サービス(1)

～ジャパンケアサービス 世田谷エリア統括 若林亮太～

多くの利用者さんが「住み慣れた街・家で生活したい」と望んでいらっしゃる。ジャパンケアサービスグループでは、その願いを実現するために、在宅で生活していても特別養護老人ホーム等の施設並みのサービス提供することが出来れば、在宅での生活が実現可能であると考え、中・重度(要介護1から5)の方々を支えるサービスシステムの開発に取り組んでまいりました。

その結果、利用者さんが夜間帯(夜の10時から翌朝の7時迄)において介護サービスが欲しい時にペダント式のケアコールを押すとヘルパーが駆けつけて必要なサービスが提供できる「随時サービス」を開発しました。このサービスシステムが平成18年「夜間対応型訪問介護」として、国の制度に位置づけられました。利用者さんが介護サービスの欲しい時に必要なサービスを提供する「随時サービス」は、まさしく利用者さんのニーズに的確に対応するシステムです。当社では、併せて定時に短時間でヘルパーが利用

者さん宅を巡回しながらサービスを提供する「定時巡回サービス」を提供してきました。「随時サービス」を利用されている方で、ケアコールが毎日同じ時間になり、内容が固定化された時には「定時巡回サービス」に変更しました。「随時サービ



ス」によって掘り起こされた利用者さんのニーズもまた「定時巡回サービス」よってカバーがされています。

その後、東京都世田谷区が実施された「夜間対応型訪問介護」についての調査結果から、夜間よりむしろ日中帯に利用したいということがわかりました。平成21年4月世田谷区は「夜間対応型訪問介護」に登録している利用者さんに対し、24時間「随時サービス」の提供が受けられるようにするために、世田谷区が単独で新たな制度を設けました。当社はこの委託を受けて、「24時間随時サービス」を提供しています。これにより、このサービスを利用の方が大幅に増えました。そして利用者さんの中には施設入所の手続きを止めた方も出てきています。このサービスはまさに中・重度の利用者さんの在宅での生活を支えることを可能にしました。

去る8月29日、菅総理が新 在宅三本柱を発表され、平成24年度の介護保険改正時に「24時間地域巡回・随時訪問サービス」を要にする事が明らかにされました。名称の違いはあるにしても、まさしく世田谷区とジャパンケアサービスが開発・実践してきた事業であります。平成24年度を目指してこの事業を全国に普及するために全社員一丸となって邁進する所存であります。

次回の介護ネットニュースからは、実際のサービス事例を取り上げて皆様へお伝えしたいと思います。

世田谷区からのお知らせ

介護保険ご利用状況のお知らせ

介護保険サービスご利用者あてに、介護保険給付費通知を送ります。

この通知を受けたご利用者からサービス内容等の内訳について、ケアマネジャー・サービス事業所・施設にお問い合わせがあるかと思えます。お問い合わせが



あった場合は、対応のご協力をお願いいたします。

【発送時期】10月26日

【内容】平成22年5月～8月利用分

サービス利用年月、サービス事業所名、サービス種類（福祉用具購入・住宅改修費等を除く）
ご本人負担額、介護保険給付額

【問合せ】介護保険課保険給付係

TEL:5432-2646 FAX:5432-3042

「せたがや介護の日」～笑顔で介護～ にご参加ください

認知症や介護が必要になっても自宅や住み慣れた地域で生活するためにはどうしたら良いか？。高齢者介護のあり方、地域社会の支援などについて一緒に考えてみませんか？

日時 11月11日（木）午後1時～5時（正午開場）

場所 世田谷区民会館（世田谷区世田谷4-21-27）

内容

第1部 シンポジウム 午後1時～2時20分 [手話通訳あり]

テーマ「いつまでも地域で生活するために」

コーディネーター 村田幸子氏（福祉ジャーナリスト・元NHK解説委員）

パネラー 末延法子氏（シーエルポート世田谷、世田谷ケアマネジャー連絡会会長）

松井知子氏（訪問看護ステーションけやき所長）

若林亮太氏（ジャパンケアサービス世田谷エリア統括）

高橋聡子氏（在宅介護家族の会フェロー会代表）

第2部 映画上映 午後2時30分～4時30分

映画「老親ろうしん」出演：萬田久子 小林桂樹ほか 監督：楨坪亨鶴子 2000年作品

第1部・第2部ともに、事前申込みは不要で入場は無料です。ただし会場の定員に達した場合は入場できない場合があります。

その他、家族介護者支援のコーナー、介護体験のコーナー、福祉用具の展示、あんしんすこやかセンターや高齢者クラブのPRコーナーなどがあります。

問合せ 世田谷区高齢福祉課管理係 5432-2397 fax5432-3021



「地域密着複数事業所連携事業」参加事業所の募集について

小規模な5つ以上の介護サービス等の事業所がユニットを形成し、「合同研修」や「合同採用」活動を行った場合に経費を補助する事業を東京都が東京都福祉人材センターへ委託して実施します。現在、事業への参加を希望するユニットを募集しています。

補助金限度額：1ユニット69万4千円（ただし10事業所以上の場合は138万8千円）

申込締切：11月30日（火）

詳細は 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 東京都福祉人材センター

TEL 03-5211-2860 <http://www.tcs.w.tvac.or.jp/activity/jinzai.html>



通所連絡会平成22年第1回研修報告

せたがや通所連絡会は、第1回通所連絡会研修を平成22年9月21日(火曜日)世田谷区福祉人材育成・研修センターにて実施いたしました。

今回は浴風会病院の古田伸夫先生をお招きして「デイサービス・デイケアにおける認知症の理解」というテーマで開催いたしました。新規の事業所など40名を越える参加者が集まり認知症への関心の高さが伺えました。

今回の研修では認知症をテーマにしながらも少し突っ込んだ内容で「認知症の医学的理解」というような内容で認知症とは、ということから認知症の原因、認知症の種類、認知症ケアで重要なこと、診断方法、医学的など、家族ケア、医療との連携、薬物療法までかなり広範囲に、また分かりやすく大変勉強になったという意見が多く寄せられました。また、研修後半には質疑応答の時間も取り、事前の質問からその場での質問まで古田先生に直接お答えいただきました。

通所介護でも認知症の方がたくさん来るようになり、職員の認知症に対する知識が必要になってきている中で、大変勉強になる研修会だったのではないのでしょうか。今回の研修では参加した方々にアンケートを書いて頂きましたので今後の通所連絡会に反映していきたいと思っています。

通所連絡代表 千山の里 高橋常樹



研修情報・イベント情報

【世田谷区介護サービスネットワークの研修】

1) 第2回 明日から役立つヘルパー研修

平成22年11月12日(金) 18:30~20:30

会場:成城ホール集会室D

テーマ:高次脳機能障害の理解

2)在宅介護経営部会 第3回定例会

平成22年11月18日(木)

会場:世田谷区福祉人材育成・研修センター研修室

テーマ:介護人材の育成法

講師:介護労働安定センター職員を予定

【世田谷区福祉人材育成・研修センターの研修】

1)管理職・指導者研修

「人材教育の推進と人材育成システムの内製化」

平成22年11月17日(水) 9:00~12:00

定員:40名 11月12日締切

会場:世田谷区福祉人材育成・研修センター

【その他のイベント】

1)「せたがや福祉100人委員会報告会」

日時:11月12日(金)午後7時~9時 場所:成城ホール

で 当日直接会場へ。先着200人

内容:区民、事業所、区と一緒に福祉や介護の課題に取り組んできた3年間の活動の成果を報告。

問い合わせ:保健福祉部計画調整課

URL:<http://www.city.setagaya.tokyo.jp/040/d00019052.html>

電話:5432-2427 FAX:5432-3017

2)せたがや福祉区民学会第2回大会

日時:12月11日(土)正午~17時

場所:日大文理学部キャンパス(桜上水3-25-40)

内容:高齢者、障害者、保育などに関連した世田谷区内の実践事例の発表など。

印の問い合わせ先は

世田谷区福祉人材育成・研修センター

電話:5429-3100



会員事業所の研修、イベントの情報を掲載します。ネットニュースは、隔月奇数月に発行します。希望者は、事前に事務局にお問い合わせください。ただし、掲載できるのは非営利の研修、講演会、イベント等に限りです。

編集担当から

ネットニュースを創刊してから早いもので20号になります。この間、多くの方々にご協力いただきました。紙面を借りてお礼申し上げます。

今年度から会計事務を含めてほとんどの事務局事務を運営委員会で担うこととなったことを前号でお知らせしました。総会から約4ヶ月が過ぎ、自主運営も少しずつ良い回転を始めていま

す。次号では運営状況について半期の報告を掲載します。

各部会の活動報告を掲載していますが、中心になって活動する人が不足しています。学習会や研修の企画運営などはとても勉強になります。訪問介護部会では、幹事を募集しています。業務の経験が短い方でも歓迎します。



問い合わせ先

世田谷区社会福祉事業団

世田谷区福祉人材育成・研修センター

電話:03(5429)3100、FAX:03(5429)3101